

令和5年度 京都市 英語教育改善プラン

目標

京都のすばらしさや自らの考えを世界に発信できる英語力を育成するため、小・中・高等学校を通じた英語教育の充実を図るとともに、ALTとのTTをはじめ、日常的に英語に触れる機会や、英語によるコミュニケーションが求められる環境を意図的に設定する。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①教育委員会主催研修や先導的なオンライン研修実証研究事業の活用が進んだ。
- ②CAN-DOリスト形式の学習到達目標を全市小学校において作成した。

未だ改善が必要な点

- ①英語教育実施状況調査の結果、授業における、児童の英語による言語活動の占める割合が50%以上がR3年度79.5%、R4年度82.2%で全国平均に比べて低い。
- ②目標達成状況をどのように評価するのか（評価基準の設定とパフォーマンス評価）を明確に理解できている指導者が少ない。
- ③小中高連携のさらなる推進
- ④指導者の英語力向上

2. 分析

- ①誰に対してどんな研修が必要なのかを明確にし、悉皆と任意に分けた多様な研修を開催した。周知及び活用を促した。
- ②教育委員会のリーダーシップの下にCAN-DOリスト作成の必要性及び活用についての理解を図り作成を促した。

- ①「言語活動」についての理解が一定図れたことによる割合の低さと分析。
- ②本市独自の「小学校外国語評価ガイドブック」をR5年度版に改訂したが、その周知や活用方法についての理解が不十分。
- ③教育委員会の担当者が互いの校種の会議に参加するなどして情報共有し、者が、校種間連携の必要性や研修講座の魅力的なテーマについて、会議する場が不足していた。そのため、学校に対しても周知や呼掛けが不十分であった。
- ④英語力向上に向けて自己研鑽の機会が不足している。

3. 施策・事業

- ①**全教員**研修動画作成、「English Exchange : ALT & You」（ALTとのSmall Talk実践）、小学校英語夏季指導講座、教員が指導主事にオンラインで相談できる主事相談会を毎月開催
専科 小学校英語専科教員等研修会、「小学校英語指導者支援事業」学校指導課参与の派遣、指導主事による専科訪問・巡回指導
若手 授業力向上研修会
その他 令和5年度からは英語アプリ「キソサポ」での学習状況の分析による先生向けの研修
- ②令和4年度に「小学校外国語評価ガイドブック」を作成し、CAN-DOリストを例示。Teamsを活用し効率を図る。
- ①理論研修動画を作成し、様々な研修の中で、授業における具体的な姿を示す。令和5年度から英語アプリ「キソサポ」を試行導入し、児童が授業とは別の目的・場面・状況設定の中で表現に出合う工夫をし、言語活動の機会に生かせる英語力向上のツールとして授業や家庭学習で活用。（アンケートで検証を行う）本市研究事業における指定校での実践を全市に配信予定。
- ②外国語評価改善等研修会を開催。評価ガイドブックを令和5年度版に改訂し、評価と指導の一体化や評価についての理解を一層図る。
- ③小学校英語指導講座、外国語小中高合同講座、中学校英語科教員指導力向上講座、高等学校英語教科指導講座等を実施する。（いずれも全校種で参加可能）教育委員会の英語担当者会における意見交流の場を設定。
- ④ALTを積極的に活用。English Exchange : ALT & You（ALTとのSmall Talk実践）等、指導者が英語力向上を図る機会を創出する。

令和5年度 京都市 英語教育改善プラン

目標

京都のすばらしさや自らの考えを世界に発信できる英語力を育成するため、小・中・高等学校を通じた英語教育の充実を図るとともに、A L TとのT Tをはじめ、日常的に英語に触れる機会や、英語によるコミュニケーションが求められる環境を意図的に設定する。

1. 現状

改善が進んだ点

①授業における、生徒の英語による言語活動の占める割合の向上

未だ改善が必要な点

①英語教育を推進する中核校を中心とする各校における公開授業のさらなる内容の充実

②目標達成状況をどのように評価するのか（評価基準の設定とパフォーマンス評価の実践）」が明確でない

③小中高連携のさらなる推進

2. 分析

① 各年次研修において、特に、1年目から5年目までの教員を対象とした研修において、教師の英語使用と生徒の言語活動を充実させることに重点をおいた。

小中連携の改善により、小学校での英語に触れあう活動の成果を活用し、子どもたちが積極的に英語で発言ができるような授業計画を意識した。

教師が指導者としての役割から支援者や援助者としての役割へ移行できた。

①多忙な中で研究が進められない。各校の実態や抱える課題が多種多様である

②知識・技能を問うペーパーテストに依存してきたため、思考力・判断力・表現力を問うパフォーマンステストを効果的かつ公正公平にすすめることができていない。

③各校種の指導主事や行政担当者が、校種間連携の必要性や研修講座の魅力的なテーマについて、会議する場が不足していた。そのため、学校に対しても周知や呼掛けが不十分であった。

3. 施策・事業

①引き続き生徒の英語による言語活動の充実を図るための研修会を実施するとともに、英語アプリを活用し、個々の英語力に合わせた会話練習や、先生から生徒へオンラインで個別の課題を配信する機能等によって、言語活動の機会を増加させる。

【目標】言語活動50%以上の学校の割合：80.1%→100%

①各校にて定期的に教科会を開き、「授業公開週間」の年間化や、教科全体で授業を見合う取組を進める。

②中間テストを、スピーキング等によるパフォーマンステストで行うことを検討するとともに、一部学校でTOEFL Primaryテストを実施するなど、単語や文法等の理解度だけではなく、学んだことを活用できるかの到達度で評価し、指導と評価の一体性を持たせる。

【目標】パフォーマンステストの実施率状況：82.4%→100%

③小学校英語指導講座、外国語小中高合同講座、中学校英語科教員指導力向上講座、高等学校英語教科指導講座等の、小中高合同実施の教科指導講座を実施し、さらなる連携を進める。（いずれも全校種で参加可能）

令和5年度 京都市 英語教育改善プラン

目標

京都のすばらしさや自らの考えを世界に発信できる英語力を育成するため、小・中・高等学校を通じた英語教育の充実を図るとともに、A L TとのT Tをはじめ、日常的に英語に触れる機会や、英語によるコミュニケーションが求められる環境を意図的に設定する。

1. 現状

改善が進んだ点

- ① 新学習指導要領の目標達成を実現するための授業改善の推進。
- ② 生徒の発信力を高めるための質の高いパフォーマンステストの実施。

未だ改善が必要な点

- ① パフォーマンステストのさらなる質の向上と実施回数精選。
- ② 小中高連携のさらなる推進。

2. 分析

- ①・②「評価検討委員会（校長会主催による）」を軸に、高等学校外国語科における観点別学習状況の評価のあり方の議論、年間指導計画の検討を行い、教員の授業改善と生徒の学習改善につなげることができた。各校の課題を市立高校全体で共有しながら、より良いパフォーマンステストの実施につなげた。
 - ① パフォーマンステストの実実施回数が増えており、効率的な採点、生徒への効果的なフィードバックに繋がりにくくなっている。年間指導計画を再度検討し、実施場面の精選を検討する。
 - ② 令和3年度は各校種が抱える課題の共有、令和4年度は教材やパフォーマンステストを基にした実践の交流を行い、校種間連携を基にした授業改善につなげたが、他校種担当者が互いの会議に参加するなどして共有し、連携の必要感や研修講座の魅力的なテーマについて語る場が不足していた。周知や呼び掛けについても不十分であった。

3. 施策・事業

- ①・②・①

令和5年度も評価検討委員会を実施する。さらなる授業改善の議論だけでなく、今年度は各校で実施しているパフォーマンステストと生徒の成果物を持ちより、パフォーマンステストの質の向上のために議論をすすめる。また、「実践的英語力測定調査事業」として各校でGTEC（4技能）を実施し、その結果をもとにして分析会を実施する。分析会において、各校の授業実践を客観的に振り返り、指導改善につなげる。

<生徒の英語力の目標>

 - ・CEFR B1 達成率20%
 - ・CEFR A2 達成率85%
- ② 小学校英語指導講座、外国語小中高合同講座、中学校語科教員指導力向上講座、高等学校英語教科指導講座等の、小中高合同実施の教科指導講座を実施し、さらなる連携を進める。（いずれも全校種で参加可能）